

履歴書及び研究業績等の記載要領

- ① 履歴書等は、本学部指定の様式（MSワード形式）を使用し、作成してください。
- ② 記入欄不足の場合は、同一様式をコピー・ペーストし作成してください。
その場合、右下欄に〔2の1〕、〔2の2〕のように枝番号を付してください。
- ③ 各様式とも年・日付順（日付の古い順）に、和暦を指定している箇所を除き、西暦で記入してください。
- ④ 様式は10種12様式あります。記入事項がない様式であっても、氏名欄は必ず記入し、「書名」欄及び「題目」欄等へ「該当なし」と記入してください。
- ⑤ 戸籍上の氏名とは異なる旧姓及び別名（以下「通称名」という）を使用する場合は、『戸籍上の氏名（通称名）』の順に記入してください。
（例）「日大 太郎（砧 太郎）」（この場合、戸籍上の氏名が「日大太郎」、通称名が「砧太郎」となる。）

履 歴 書

1 学 歴

学歴は高等学校入学から記入してください。

大学は、学部・学科・専攻まで、大学院は、研究科・専攻まで記入してください。

大学院博士後期課程は、出身大学の記載に基づき記入してください。

① 学 位

修士・博士ともに取得大学名及び取得年月日を記入してください。

② 免許・資格

種類、取得年月日及び免許・登録番号等を記入してください。

③ 主たる研究領域

主たる研究領域を具体的に記入してください。

④ 担当科目名

大学等で講義等を担当した科目名を記入してください。

複数ある場合は、主たる科目名に○を付記してください。

2 職歴・賞罰

① 職 歴

(1) 職歴・賞罰の1行目中央に「職 歴」と記入してください。

(2) 職歴欄には、役職名及び職務内容を具体的に記入してください。

(3) 当校入職後、教職員の職務と直接関係あると認められる職務等は、漏れなく記載してください。

(4) 当該勤務先で担当した科目名を「 」で記入してください。

例 日本大学商学部「マーケティング論」担当

(5) 現在も同内容で勤務している場合は「(現在に至る)」, 退職等している場合は, 「(2018. 3. 31 まで)」のように記入してください。

② 賞 罰

職歴の次に「賞 罰」と記入し, 無ければ「な し」と記入してください。

研 究 業 績

「研究業績」とは, 公刊された著書・学術論文及び学会発表等をいいます。

※博士論文は, 研究業績の審査対象には含まれません(著書として公刊されたものは除きます)。

※「昇格」を伴う採用の場合は, 現資格以降の業績が研究業績の審査対象となります。

(現在「准教授」の方が「教授」で応募する場合は, 「准教授」以降の業績が審査対象となります。なお, 様式には全ての研究業績を記入してください。)

※研究業績の審査対象は, 記入時において未発表のものは含まれません。

※研究業績の審査対象は, 「3 著書」, 「4 学術論文」に限ります。

3 著 書

学術専門書に限ります。著書は【単著・共著】又は【単編著・共編著の分担執筆論文】により記入欄が異なります。以下の指示に従って記入してください。

① 【単著・共著】の「単著・共著の別」欄は, 単著の場合は「単」, 共著(分担執筆の箇所が明記されていないもの)の場合は「共」と記入してください。共著の場合の「著者名」欄は, 共著者3名までを記入し, 最後に全共著者数を括弧書きしてください。例(5名)。また, 博士論文が著書となった場合は, その旨を記入してください。

② 【単編著・共編著の分担執筆論文】の「著者名」欄は, 分担執筆論文の著者名を記入し, 共著の場合は共著者3名までを記入し, 最後に全共著者数を括弧書きしてください。例(5名)

③ 【単編著・共編著の分担執筆論文】の「分担執筆論文の単著・共著の別」欄は, 単著の場合は「単」, 共著の場合は「共」と記入してください。また, 「分担執筆論文名(編著者名, 書名, 担当章)」欄は, 最初に「分担執筆論文名」を記し, 編著者名(本の表紙又は背表紙に記載された著者名2名まで)を記入し, 最後に全編著者数を括弧書きしてください。例(10名)。次に, 『書名』所収, 分担執筆章, 担

当した執筆頁を「106～125」，著書の頁数を「350」のように記入してください。

- ④ 分担執筆論文で査読有の場合は，題目（論文名）に続き（査読付）と付記してください。
- ⑤ 「発行所」欄及び「発行年・月」欄は，漏れなく記入してください。
- ⑥ 講義用の教科書，一般向け（例えば，実務家向け）の著書，資料集等の執筆がある場合は，「6 その他の著作」欄に記入してください。

4 学術論文

国内外の学会誌・学術専門誌，大学の研究機関誌・学術専門誌等に発表したものに限ります。なお，研究ノートの場合は，（研究ノート）と記入してください。また，博士論文があれば記入してください。ただし，著書として公刊されたものは除きます。その場合は，（博士論文）と記入してください。

- ① 共著の場合の「著者名」欄は，一番上に代表者名，その下段に共著者3名までを記入し，最後に全共著者数を括弧書きしてください。例（5名）
- ② 「巻（号）：頁～頁」欄は，「1（3）：11～20」のように記入してください。
- ③ 「発表誌名」欄，「発行学会・発行所」欄及び「発行年・月」欄は，漏れなく記入してください。なお，海外の学会誌・学術専門誌で「発行月」が記載されていない場合は，「発行年」のみ記載してください。
- ④ 査読有の場合は，題目（論文名）に続き（査読付）と付記してください。
- ⑤ 国際会議や国際学会のプロシーディングに掲載された論文は，「5 学会発表」欄に記入してください。ただし，プロシーディング掲載論文が学会誌等に収載された場合は，「4 学術論文」欄に記入し，著書に収載された場合は，「3-2 著書【単編著・共編著の分担執筆論文】」欄に記入してください。
- ⑥ 業界誌（紙），新聞，非学術雑誌，官庁調査等に発表したものは，学術論文の対象としません。これらは「6 その他の著作」欄に記入してください。

5 学会発表

日本学術会議協力学術研究団体又はこれに準ずる団体が主催する学会若しくは国際会議における学術発表に限ります。なお，同学会での学術講演等は，学会発表に含みます。

- ① 共同研究の場合の「発表者名」欄は，一番上に代表者名，その下段に共同研究者3名までを記入し，最後に全共同研究者数を括弧書きしてください。例（10名）
- ② 「発表要旨集等（予稿集やプロシーディング等）の頁」欄は，「11～20」のように記入してください。
- ③ 「発表学会名」欄は，正式名称（通称不可）で記入してください。

- ④ 「開催地・機関」・「発表年・月」欄は、漏れなく記入してください。

6 その他の著作

著書、学術論文以外の著作物（教科書、一般向け著書、事典、辞典、翻訳書、翻訳、翻刻、書評、研究資料、調査報告、ワーキングペーパー、ディスカッションペーパー等）は、この様式に記入してください。

- ① 《著作の区分》欄は、教科書、一般向け著書、事典、辞典、翻訳書、翻訳、翻刻、書評、研究資料、調査報告、ワーキングペーパー、ディスカッションペーパー等の種別を記入してください。
- ② その他の項目については、「3 著書」及び「4 学術論文」の記載要領に準じて記入してください。

学会並びに学外での活動状況・その他

7 所属学会・研究団体等

- ① 「所属学会・研究団体等の名称」欄は、正式名称（通称不可）を記入してください。
- ② 脱会した場合は、その日付を「入会年・月・日」欄に、「（2018.3.31まで）」のように記入してください。

8 研究助成金・委託研究費・学術賞等の受領

- ① 研究助成金、出版助成金、文部省科学研究費、その他学会や官庁、各種団体・財団等から受けた研究助成金・学術賞等は、交付・委嘱の機関・団体名、助成金額や賞の名称を記入してください。
- ② 「名称（種別）」欄の（ ）内は、個人・共同・総合研究等の種別を記入してください。
- ③ 「研究代表者分担者の別」欄は、研究代表者又は分担者と記入してください。

9 研修・調査・学会委嘱等の海外出張

- ① 大学等からの派遣の他、学外の各種機関・団体からの委嘱による海外出張歴について記入してください。
- ② 「派遣・委嘱機関、団体名」欄は、〇〇大学、文部科学省、〇〇学術振興会、〇〇財団、〇〇協会のように記入してください。
- ③ 「種別（費用の出所）」欄は、派遣研究員、研修、学会出席、海外調査、〇〇大会参加等のように記入してください。
- ④ 学生の海外実習・研修のための引率出張等も記入してください。

10 学会・官公庁・財団・協会等の委員・役員委嘱

- ① 学会は，日本学術会議協力学術研究団体又はこれに準ずる団体に限ります。
- ② 「学会・団体等名称」欄は，正式名称（通称不可）を記入してください。

以 上

履 歴 書

《 記 入 例 》

令和4年5月22日現在

3か月以内撮影の
脱帽上半身の写真を
貼ってください
4cm×3cm

ふりがな	にちだい たろう	性別
氏 名	日 大 太 郎 (印)	男
生年月日	(昭和) 46年(西暦1971年) 10月 4日 (満45歳) 平成	

ふりがな	とうきょうと せたがやく きぬた	電話番号
現住所	〒157-8570 東京都世田谷区砧五丁目2番1号	(03) 3749-6711

1 学 歴

年(西暦)	月	日	記 事
1987	4	1	日本大学高等学校 入学
1990	3	3	日本大学高等学校 卒業
1990	4	1	日本大学商学部商業学科 入学
1994	3	25	日本大学商学部商業学科 卒業
1994	4	1	日本大学大学院商学研究科 経営学専攻博士前期課程 入学
1996	3	25	日本大学大学院商学研究科 経営学専攻博士前期課程 修了
			以 上

学位記等で確認し
日付まで記入する

略さず記入する
(同, 同上は不可)

最後に「以 上」
と記入する

氏 名	日 大 太 郎
-----	---------

1－2 学位・免許資格等

	種 別	取得年月日	取得大学名
学 位	学士（商学）	1994 年 3 月 25 日	日本大学
	修士（商学）	1996 年 3 月 25 日	日本大学

注）学位記や卒業・修了証明書等で種別や年月日を確認すること。

免許・資格	<p>高等学校教諭第 1 種免許（社会・商業）</p> <p>平成○年○月○日 ○○○○○号</p>
-------	---

注）教員免許状等で内容を確認すること。

主たる研究 領 域	主に研究されている研究領域を具体的に記入してください。
--------------	-----------------------------

担当科目名	<p>○ 商 学</p> <p>マーケティング論</p> <p>流通論</p>
-------	---

〔2の1〕

氏 名	日 大 太 郎
-----	---------

3 著 書【単著・共著】

著者名	書 名	単著・共著の別	〔発 行 所〕	著書の頁数
			〔発行年・月〕	
日大 太郎	多国籍企業の戦略的サプライチェーンマネジメント（博士論文）	単	〔日大出版会〕	300
日大 太郎	現代商学のネットワーク理論	単	〔日大出版会〕	200
日大太郎、日大二郎、日大三郎 (5名)	現代企業のグローバル戦略	共	〔日大出版会〕	400
			〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕

博士論文の場合は
その旨を明記する

氏 名	日 大 太 郎
-----	---------

3-2 著 書【単編著・共編著の分担執筆論文】

著者名	分担執筆論文名 (編著者名, 書名, 分担執筆章)	分担執筆論文 の単著・共著の 別	分担の場合の執筆頁	著書の頁数
			[発 行 所]	[発行年・月]
日大 太郎	日本企業のものづくり戦略 (商学太郎編 『グローバル企業の技術戦略』所収、第2章)	単	20～33 [日大出版会]	400 [2013年5月]
日大太郎、日大二郎	プラットフォーム戦略 (商学太郎、商学二郎 (10名)編『ビジネスモデル戦略論』所収、第5章)	共	90～105 [日大出版会]	350 [2014年8月]
日大太郎、日大二郎、日大三郎 (5名)	組織と情報戦略 (商学太郎、商学二郎 (10名)編『ビジネスモデル戦略論』所収、第6章)	共	106～125 [日大出版会]	350 [2014年8月]
Taro Nichidai	Challenge Detailed Planning in ERP (査読付) (Piazzolo, F. & Felderer, M. (Eds.) 『Multidimensional Views on Enterprise Information Systems -Proceedings of ERP Future 2014(Lecture Notes in Information Systems and Organisation, Vol.12)』所収、Chapter 4)	単	55～68 [Springer]	183 [2016年1月]
Taro Nichidai, Jiro Nichidai,	Cultural Mythology and Global Leadership In Japan (査読付) (Kessler, E. & Wong-Mingji, D.(Eds.) 『Cultural Mythology And Global Leadership』所収、Chapter 19)	共	343～358 [Edward Elgar Publishing]	390 [2016年2月]
			[]	[]
			[]	[]

プロシーディング掲載論文が
著書に収載された場合

査読のある場合は
その旨を明記する

査読のある場合は
その旨を明記する

氏 名	日 大 太 郎
-----	---------

博士論文の場合は
その旨を明記する

4 学術論文

著者名	題 目 (論文名)	著者・ 共著の 別	発行誌名	巻(号) : 頁～頁
			〔発行学会・発行所〕	〔発行年・月〕
日大 太郎	ハイテク業界におけるビジネスモデルに関するグローバル研究 (博士論文)	単	博士論文	431
			〔日本大学〕	〔2002 年 2 月〕
日大 太郎	大企業の戦略的イノベーション	単	研究技術計画	24(1) : 35～53
			〔研究・技術計画学会〕	〔2009 年 8 月〕
Toro Nichidai, Jiro Nichidai, Siro Nichidai (5 名)	Boundaries Innovation and Knowledge Integration in the Japanese Firm(査読付)	共	Long Range Planning	42(4) : 463～494
			〔Elsevier〕	〔2009 年 8 月〕
Toro Nichidai	Strategic Partnerships with Innovative Customers: A Japanese Case Study(査読付)	単	Information Systems Management	19(2) : 31～52
			〔Taylor & Francis〕	〔2010 年〕
Taro Nichidai and Jiro Nichidai	Managing the change of strategy from customisation to product platform: case of Mabuchi Motors, a leading DC motor manufacturer(査読付)	共	International Journal of Technology Management	67(2-4) : 289-305
			〔Inderscience〕	〔2015 年〕
日大 太郎	中国企業の海外進出をめぐる一考察(査読付) (研究ノート)	単	商学集志	85(1・2 合併号) : 127～146
			〔日本大学商学部〕	〔2015 年 2 月〕
	研究ノートの場合は その旨を明記する		〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕
			〔 〕	〔 〕

「発行月」が記載されていない場合は「発行年」のみ記載

プロシーディング掲載論文 (PICMET '14 Conference に掲載) が学会誌等に収載された場合

氏 名	日 大 太 郎
-----	---------

5 学会発表

発表者名	題 目	単独・共同の別	発表学会名	発表要旨集等の頁
			〔開催地・機関〕	〔発行年・月〕
日大 太郎, 日大 二郎	カスタマ・アズ・イノベータのアプローチによる顧客価値創造～画像処理システム LSI 開発の事例研究を中心に	共	日本生産管理学会 第 17 回全国大会	300～303
			〔学習院大学・日本生産管理学会〕	〔2007 年 3 月〕
Taro Nichidai and Jiro Nichidai	Crafting a product platform strategy: Change in strategy of Mabuchi Motors, a leading DC motor manufacturer	共	PICMET '14 Conference	1625～1633
			〔San Jose, Portland International Center for Management of Engineering and Technology〕	〔2014 年 8 月〕
	プロシーディングに掲載された 論文の記入			

氏 名	日 大 太 郎
-----	---------

6 その他の著作

著者名	題 目	単著・共著の別	発表誌名等	巻・号・頁等
			[発行所]	[発行年・月] 《著作の区分》
日大太郎、日大二郎	知識創造経営とイノベーション (MOT テキストシリーズ)	共		233
			[丸善]	[2006 年 4 月] 《教科書》
日大太郎	使える経営学	単		249
			[東洋経済新報社]	[2014 年 11 月] 《一般向け著書》
フォン・ベルタラフィ (日大太郎、日大二郎：共訳)	General System Theory (一般システム理論)	共		288
			[みすず書房]	[2005 年 1 月] 《翻訳書》
Taro Nichidai	Exploring the Black Box of Modularity: Process to formulate design rules in the Renault-Nissan CMF	単	TOHOKU MANAGEMENT & ACCOUNTING RESEARCH GROUP	No. 119 : 1~23
			[GRADUATE SCHOOL OF ECONOMICS AND MANAGEMENT TOHOKU UNIVERSITY]	[2015年7月] 《Discussion Paper》
日大太郎	ブロードバンドと FMC が加速する ビジュアルコミュニケーション	単	テレコミュニケーション	No. 252 : 20~22
			[リックテレコム]	[2005 年 7 月] 《業界誌》
Taro Nichidai	A Review of “Knowledge Innovation: Strategic Management as Practice” Jiro Syogaku. Cheltenham, UK: Edward Elgar, 2007, 244 pp.	単	Journal of Business & Finance Librarianship	16(3) : 247~249
			[Taylor & Francis]	[2011 年 6 月] 《書評》

ワーキングペーパー(WP)やディスカッションペーパー(DP)はその他の著作に記載する